

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2		
自己評価作成日	令和7年8月1日	評価結果市町村受理日	令和7年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193300015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193300015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた自然環境の中で、穏やかに各自思うように生活していただいています。その時々 の季節の食材を自分たちで処理して美味しくいただきます。また、下肢筋力が衰えても、トイレ で排泄していただく事をポリシーに支援させていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が、最後まで美味しいものを食べ、自分で歩いて、排泄もトイレで出来る事を目標に支 援に取り組んでいる。一人ひとりの個性や能力を見極め、本人の希望や状態をよく観察しな がら、適切なサービスの提供に繋げ、毎年プランの取り組み内容を課題解決に向けて更新し ている。飛騨市の地域性もあることから、市の地域包括ケア課が中心となって、介護事業所 や様々な介護福祉に関する事業への後押しがある。事業所は行政や地域と相互に協力し合 いながら、地域密着型サービスの理想とするグループホーム作りに取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は、生まれ育った地域の思い出や生い立ちを考慮するきっかけになるよう、畑仕事や、季節ごとの行事を重んじ、支援させていただいています。	同法人事業所の共通理念と共に、河合独自の理念として「家庭的な環境で個性や能力を活かし、自分らしく暮らして頂ける施設を目指す」を掲げている。また、「自分の親を入れたいグループホーム、将来自分も入りたいグループホーム作りを目指す」を介護目標として日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に草刈りをして頂き、お礼に山菜おこわや赤飯を炊いて配ることや、切り花を頂いて生け花を楽しむ等、ありがたい付き合いをさせて頂いている。	自治会に入会している。野菜の差し入れ・草刈り・備品修理等、近隣住民によるボランティア協力がある。廃校を利用した事業所の横には体育館が在り、祭りの道具が保管され住民の出入りがある。祭礼には獅子舞と一緒に写真を撮るなど、交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で、日々の生活の写真を掲示し利用者様の施設での活動を知っていただき、今後の活動につなげている。	市職員・民生委員・駐在所の警察官・近隣代表・家族が参加し、行事報告・入居者状況・ヒヤリハット報告を行なっている。家族からは感謝の言葉や、物価高騰の折、行政から支援金の話も出ている。細かく記された議事録は家族や参加者に配布している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や取組みを伝え、困りごとの相談をさせて頂いたり、職員が地域のサークル活動に参加するなど、連携を図っている。	飛騨市全体を「施設」と考えているとの市長の言葉もあり、市職員とは気軽に相談できる関係にある。運営推進会議で事業所の実情を伝えながら、困りごと等の相談をすることができている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束適正化のための研修を行い「虐待の芽チェックリスト」を定期的に行うことで、各自の課題の把握に努めている。	身体拘束廃止検討委員会を開催し、研修内容を決めて内部研修を行なっている。必要だと思った介助が「不適切なケア」に当たることもあることを理解し、一人で抱え込まないケアに努めている。研修資料はミーティングノートに貼り、全職員に回覧して周知している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待・身体拘束適正化のための委員会や研修を行い、職員のケアについて見直しを行っている。また、職員が、感情のコントロールが出来るよう、日々の会話の時間を多くとり、抱え込まないよう努めている。	虐待防止検討委員会及び研修会を開催し、高齢者虐待防止法について、改めて学んでいる。虐待となる行為を正しく理解し、チェックシートを活用して虐待を見過ごさないなど、個々に自覚を持って支援している。管理者は、職員のストレスチェックも行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	判断能力が十分でない高齢の利用者が、権利や尊厳を守り、自分らしい生活が送れる様に情報提供や、相談支援を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安を取り除く様十分な説明を行い、納得していただけるまで説明を繰り返します。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の場合や、来所された時など、気軽に声掛けをしていただける環境を整え、コミュニケーションをとらせていただいています。また、意見箱を2か所に配置し、声を聞かせていただいています。	意見箱を設置している。年1回家族アンケートを実施し、家族の意向を聞いている。日々の食事内容について質問があれば、食事の写真を撮って廊下に貼っている。法人が3事業所共通の通信を月1回発行し、事業所独自でも隔月に「便り」を出している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者と職員は、頻繁に意見交換を行い、利用者様の喜ばれる活動を行うよう努めている。	管理者は常に現場に入り、職員と意見交換を行いながら、より良い運営に繋げている。提案についても話し合い、決定後は業務日誌で周知している。夜勤者との情報交換も業務日誌にて、情報共有を行っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員が働きやすいよう、個々の希望をとり入れたシフトを組んでいる。また、職員一人ひとりの得意な事を取り入れ、利用者様との支援に生かし、やりがいのある支援が出来る環境が出来ている。	休憩時間の確保や有給休暇の取得など、就業条件等を整備している。急な欠員は職員間で協力し合って調整している。職員個々の得意分野を活かしながら支援の成果が出せるようサポートし、やりがいに繋げている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員其々の得意を活かし利用者様の支援につなげることで、働く意欲の向上につなげている。	資格取得を優先して勤務シフトを組み、取得にかかる費用や、研修の際の宿泊費は法人が支援している。内部研修については、必要に応じてテーマを決め、速やかに実践して学びに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	偶数の月に飛騨地域グループホームケアマネ会議に参加し、各ホームの近況報告、困難事例の検討等を行い、学びを得ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のほとんどが、地域出身で、利用者様との共通の話題や、方言で生活できており、1対1での時間を持つことも大切にしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し、ひとり一人が、今何を思っているかなどを理解するよう努めている。また、1対1の時間を出来るだけ作り、思いを聞き出し、受け止めるよう努めている。	利用者と1対1で向き合う時間を作り、思いを受け止め、介護計画に活かしている。帰宅願望は捨てきれないが、ここでの生活が楽しいと思ってもらえるよう、職員は様々な工夫を凝らし、思いに寄り添っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族とは電話でのやり取りや来所された時に最近の様子を伝え、各自の主治医とは文書で連絡を行い、利用者とはマンツーマンでの時間を作り、皆さんの思いを職員でモニタリングし介護計画を作成している。	事前の個人情報をうのみにせず、じっくりと向き合う事で、情報の間違いや利用者の可能性を見出すこともある。家族から重度の難聴と聞いていたが、少しずつ会話ができるようになった等の事例もあり、経過記録が現場で活かされている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後・夜勤帯と切れ間のない記録を残し、変化にいち早く気付いて対応するように努めている。	記録書類と介護計画書は、常に現場で確認できるようにしている。その日の出来事や気づきは業務日誌に手書きで詳しく記載し、介護計画書との連動及び夜勤者との連携も適切に行なっている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やそのご家族の状況に合わせ、必要と思われる対処をさせて頂いている。	協力医であるクリニックを主治医としている利用者の受診は、職員が付き添い、受診している。送迎については、現在は事業所が負担している。地域のニーズにも応え薬草に関する講義を開催している。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の皆さん、利用者の御家族、職員の家族が資源となり、ホームの環境を整えたり、新鮮な野菜を頂くなど、家庭的な生活ができる様協働している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への定期受診は職員が同行し、其々の受診の時には文章で状況を伝えている。	利用者の受診は、管理者と介護士が、車で20分離れた協力医まで同行している。料金は現在事業所負担であるが、今後、事業者協議会で話し合い、策を講じる予定である。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院の相談室の方と、状況を連絡しあい、退院時には事前に話し合いの場を持っていただいて、退院に向けて必要な準備が行えている。	現在、入院は、高山市内の2つの大きな病院を家族が決めるとしている。入院時は体調の経過や情報を提供している。退院カンファレンスには、ケアマネジャーでもある管理者が出席し、関係者と相談しながら、退院に向けての必要な体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、当施設では医療行為が必要になった時の支援や見取り支援は行っていないことを十分説明し、状況に合わせて、次の施設への申し込みを薦めている。	入居時に、看取り支援を行っていないことを本人・家族に伝えている。重度化した場合、事業所では十分なサービスの提供ができないことを説明し、移行先についての助言を行なっている。転出するまでは支援可能としている。基本的に要介護3以上になった際に、特養の申し込みを支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って対応し、救急隊の方にすぐに渡せるよう、対象者其々の資料を整えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火事、地震、水害などそれぞれの災害に対して訓練をおこなっている。また、防災グッズ、防災頭巾や軍手などを一定の場所に準備している。	マニュアルを整備し、消防署への通報訓練・消火訓練・消防署立ち入り検査・防災協会の確認等の実施を、今年は3回予定している。近隣は、高齢者が多く、協力を得るのは困難であり、職員の家族に協力を依頼している。水害時は垂直避難が可能としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人のこだわりを大切にし、介護を受ける立場になって支援します。常に本人の了承を得、立ち入り過ぎないように気配りを行います。	職員は、本人のやりたいことを受け止め、尊重した対応をしている。中には、思いが強く長時間の座位で取り組む利用者もある。褥瘡の心配から医師と相談し、エアマットを使用するなど、できる限り本人の思いを優先しながら支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が出来る事は見守り、出来ないことは手伝い、自分の思いを決められるよう配慮します。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人が、時間に左右されることなく、マイペースで過ごせる環境づくりを目指しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や畑から収穫した野菜の下処理を行っていただいている。食事を頂きながら、若いころ、どんな調理や味付けをしていたかなどを話しながら穏やかな時間を過ごしている。	宅配サービス業者から食材とメニューが届いている。差し入れの野菜等も活用しながら、職員が調理して提供している。以前、学校給食の調理師をしていた職員が、嚥下をスムーズにする工夫をしながら、3食手作りで提供している。利用者も下ごしらえを手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、3度の食事量や午前午後の水分補給時の摂取量を把握している。必要な利用者様には受診時に食事内容を写真にして主治医に提出している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清拭の必要性を内部研修し、職員が必要性を学んで毎日の支援を行っている。	職員が口腔ケアについての研修を受けている。口腔衛生の必要性を感じ、支援に当たっている。歯磨きは自発的な習慣になっており、歯磨き後には、職員が丁寧に確認している。夜間の義歯管理は事業所が預かり、洗浄液に浸している。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	当施設は「足が立つうちはトイレで排泄していただく」をモットーに支援しています。便意・尿意のない方には、時間を決めトイレ誘導を行い習慣付けするよう支援を行います。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の好みの湯の温度やこだわりを職員間で共有し、一人ひとりが穏やかに楽しんでいただけるよう支援しています。また、季節感を楽しんでいただく様、菖蒲湯や柚子湯なども行います。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や、季節に合った布団を使用する、などに注意を行い、安眠できるよう支援します。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師から、ひとり一人の薬の目的や、副作用の説明を受け支援を行っている。朝・昼・夕・眠前の薬袋にマジックで色分けし、その都度名前の確認をしながら服薬支援を行っている。	ケアマネジャーが、2週間分を色分けした箱に入れ、服薬支援時には、担当者が本人確認及びダブルチェックで飲み込みまでを確認している。処方変更時は、看護師や家族から連絡を受けている。利用者の体調変化が見られた場合は、医師と連携を図っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの残存能力に合わせ、毎朝の掃除や、食事の前後のテーブル拭き、布たたみ、塗り絵、紙切り、箱たたみ等を行っていただいている。	職員は、利用者のやりたいこと、得意なことを把握し生きがいに繋がるよう支援している。折り紙が得意な利用者は、折り紙が無くてもトイレットペーパーで折り、色付けをして他者に見せながら、生き生きとしている表情を見せている。	レクリエーションがマンネリ化しないよう、利用者の好みを聞きながら、新たな楽しみごとの工夫に期待したい。職員からも「利用者の得意なことが分かってくると楽しい」という言葉も聞かれており、今後も継続できるよう期待したい。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の前にあるグラウンドを利用して、晴れた日は外気浴を楽しんでいただく。ベンチに座布団の準備をして、水分の補給や飴をなめて頂く支援を行う。御家族との外出時は、薬の飲み忘れが無いよう袋に入れて家族に預けます。	コロナ禍以降、やむを得ない場合を除き、外出は許可されていない。外泊も同様である。事業所は山々に囲まれており、四季折々の風景を眺めながら近辺を散歩している。庭先にテーブルを出し外気浴を兼ねて、食事をするなど皆で楽しんでいる。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の所持はお断りしているが、5000円程度のお金を経理が各自からお預かりしており、必要時はそのお金で買い物を行っている。最近は移動販売車が中止になり、寂しく思っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんや知人から電話をかけて頂き、楽しむ利用者がいる。事務所でゆっくり語っていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は廃校後の建物で、空間が広く、ホールには、毎月皆さんが作る共同作品が飾られています。ローカには皆さんの写真が貼られており「私や」と楽しみながら歩行されています。	元学校が研修センターとなり、その後、リフォームした建物という事から、調理室や浴室が広い。ホールや廊下の壁には、手作り作品やスナップ写真を飾り、家庭的な雰囲気となっている。居室からも外の風景が見える大きな窓があり、開放的で明るい環境となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	其々に過ごして頂ける場所が数か所あり、2～3人で集まり、談話されています。ホールでは、気の合った人同士の席を準備し、居室から出て過ごす時間を多くする工夫をしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとり一人に合わせ、仏さまを拝みたい人にはそのように、塗り絵をしたい人には塗り絵が出来る様準備をするなど、居室の空間づくりの配慮を行います。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人のその時々ADLに合わせ、居室の配置を行います。夜勤者の目が届き、支援が必要な時にすぐに支援が出来る様、トイレや食堂に近い部屋を使用していただけるよう配慮します。		